



るので、パソコンがなくても、いろいろなことができます。しかし、そうでない人は、何かしようとするときや何か手に入れようとするとき、困難が伴います。そんなとき、パソコンや携帯電話が大変役に立ちます。障害者はパソコンの技術を持った人が非常に多くいます。というのは、自分にとって不自由な部分を、パソコンで補って、これを使って仕事にしようという意欲があるからです。だから、プロップ・ステーションのHPはパソコンが得意な障害者に作ってもらっています。農家でもないのに、自分で米を作ってご飯を食べないのと同じで、できないことは人に任せて、自分

の得意なところを社会に活かせばよいのです。障害者を見て、「私は自分のことは全部自分でできるのに、この人は自分のことが自分でできないんだ。気の毒だ。かわいそう」と同情する人がいますが、同情すると、マイナスのところしか見えなくなってしまう。その人にできることが見つけられなくなるのです。これは日本の悪いところで、本当は、どうすれば一緒に仕事できるかとか、どういう道具があったらいいのかを考えるべきなのです。大事なことは、その人のマイナスのところを見ないで、得意なところを見つけれられるかどうかです。障害者であるかどうかにかかわらず、お互いの得意分野を発揮して、自分のできることをすること、それが「働く」ということだと思います。

日本では、1人平均16年間介護が必要になると言われています。介護は誰もが避けて通れないのです。これから少子高齢化が進んで、どんどん税金の負担が重くなっていくと思います。税金を払う側に納得してもらうことが必要です。世の中すべての人がやれることをやる、そんな助け合える日本になってほしいと思います。

講演3 「ITを活用した在宅就業の紹介」

サンメッセ (株) マルチメディア事業部マルチメディア課 係長 服部 光伸 氏

今日は、私と一緒に課で働いているSさんの在宅就業を紹介します。会社は、本社が大垣市にある「サンメッセ株式会社」という総合印刷会社で、印刷物の企画・デザインやウェブ制作などを業務内容としています。総社員数は、931人で、そのうち障害者は17人います。

Sさん	体幹の機能障害で、車椅子を使用 平成15年2月から、パートとして、在宅就業
採用の経緯	「VM工房ぎふ」に紹介を依頼。過去のキャリアを考慮し配属。
待遇・労働条件	パート社員（1年契約）、時給制、社会保険加入、賞与あり （休日、有給休暇ともに、出社するパート労働者と同じ） 1日の就業時間7時間40分
業務内容	システム開発等
在宅環境	PC、ソフト等は会社から貸与 VPN（Virtual Private Network）を使用 （Sさん宅にルーターを設置することで、会社にいるのと同じように社内LANを利用することができる）
出社頻度	月1回（成果物のチェックやメール連絡でできない細かな点を修正するため） +新規案件の打ち合わせ
連絡方法	メール（1日平均4件）と共有フォルダ（文書を電子化して保存）を利用 1日の終わりに電子日報を記入。（何を何時間仕事したか等、社員全員の作業状況を把握し、問題点などを共有→口頭によるトラブルを回避できる）
在宅就業の問題点	○システム開発は業務のスパンが長いので在宅に向いているが、急ぎの仕事など対応が困る ○業務上の指示はメールですが、文面では細かい内容を伝えるのに限界がある ○軌道修正が大きすぎたままになることがある。
Sさんの意見	不満な点はない。満足している点は、連絡がメールでできる点、就業時間や休日がはっきりしている点。業務で新しいことにチャレンジさせてもらえる点。